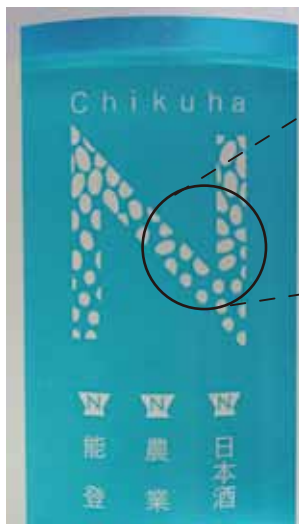
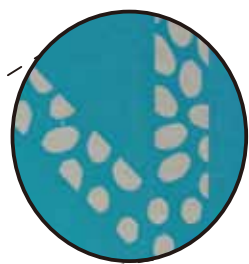


Nプロジェクトの
コンセプト

＝ 若者が能登も農業も 日本酒も盛り上げる！！



1月14日に発売され
た生酒のラベル



酒の種類ごとにテーマ色
が異なり、「生酒」の青色
は若々しさ、「にごり」の
緑は農業、「火入れ」の赤
はのとキリシマツツジをイ
メージしています。

プロジェクトの自信作「Chikuha N」

日本酒のブランド名は「Chikuha N」。Nの文字の中にある模様は、
お米一粒一粒が、精米されて磨かれる様子を表しています。同時に、
プロジェクトも磨き上げられるという願いも込められています。

売り上げの一部は 里山保全に活用

お酒の人気は高く、過去
2年度はほぼ完売。今回か
ら売り上げ1本につき30
円が里山里海保全活動に活
用されます。



4月発売の「火入れ」

20回以上能登を訪問 農業と酒造りに従事



新商品の「にごり」酒は、一本一本手作業で瓶詰め



精米所が併設されている
数馬酒造。精米や洗米な
どの過程で、米が大事に
扱われている様子を目の
当たりにした



「酒母」や麴作りの過程を
体験しながら見学。自分
たちの米が姿を変えてい
く様子を見守った



製品の箱詰めを手伝う。酒が店頭
に並ぶまでに、多くの人が関わっ
ていることを学んだ



能登
Noto

農業
Nougyo

日本酒
Nihonshu

地域と共に歩む「N」

「Nプロジェクト」3期目の新酒完成

能登半島を舞台に、金沢などの大学生
が米の作付けから日本酒造りに挑戦して
います。「Nプロジェクト」と題したこの
取組は今年で3期目。Nは「能登」「農業」
「日本酒」を意味しています。

学生たちの出身地はさまざま。米作り
や酒造り、流通の過程で能登に住む人や
企業と関わり、メンバーたちは多くの発
見をしました。

2月17日に金沢市の「しいのき迎賓館」
で開かれたお披露目の参加者とプロ
ジェクトメンバー



「N」を支える地元企業の力

米作りから酒の製造、販売までの長期のプロジェクトを学生だけ進めることは不可能です。学生たちは各企業に協力を依頼し、社会との関わりを深め

ながら、自分たちの進む方向を決めています。米作りや酒造りはもちろん、試飲会場となる小売店探しや、流通ルートを決める際にも、各企業に企画

提案を行い、協力を求めます。メンバーは大学では学べない、実践的なビジネスの現場を経験し、手応えを感じています。

農作業

志賀町の「ゆめうらら」で田植えや稲刈りなどの農作業を体験。イノシシ避けの電気柵の設置作業や、耕作放棄地を開墾するなど、農業を取り巻く問題に触れました。



製造

昨年11月～12月にかけて、メンバーが数馬酒造を訪れ、精米や製麹、瓶詰めなどを行いました。



マーケティング

金沢近郊の6店舗で試飲会を実施。製品に関する感想を聞き取りました。



ブランディング、デザイン



今期初採用の「首掛けラベル」

瓶やラベルなどは、日本酒離れが進む若者向けにデザインしました。日本酒ラベル印刷のトップ企業、高桑美術印刷（金沢市）の協力を得ながらパッケージを作成しました。今期は瓶の首にかけるラベルも制作しました。



農業



能登に関わり、さまざまなことを学んで

ゆめうらら代表取締役 裏 貴大さん＝志賀町

これまで農業に関わったことがない学生が、農業を取り巻く問題に思いを寄せながら作業にあたってくれてうれしく思います。能登に足を運んでくれること自体が社会貢献。これからも日本酒や農業、能登に関わってほしいです。プロジェクトを通じて、人との関わり方や社会人としてのマナーも学んでくれればと思います。

酒造



関わる人の思い受け止め、地元のことを考えて

数馬酒造代表取締役 数馬嘉一郎さん＝宇出津

3期目メンバーはふた月の間、酒造りに関わり、深く探求しました。プロジェクトを通じて完成するのは米や日本酒ですが、プロジェクトに対するメンバーの思いや、関わってくれる農家や企業の思いを受け止め、感じ取ってくれたら幸いです。少しでも自分たちの地元について考える時間が増えればいいと思います。

「N」に込める一人一人の思い

私は福島県二本松市出身で、実家は農家ではありませんが、人の根幹となるのは食であると考え、農業に興味を持ち、石川県立大学で学んでいます。1期目は立ち上げ、2期目が活動の拡大、3期目では農業に注力しました。Nプロジェクトは農業を取り巻く厳しい現状と日本酒消費量の低迷、人口減少という、能登が抱える問題に直接関わっています。プロジェクトで農業に触れ、さまざまな生物との共生や、有機農業の実践、農業技術の偉大さを知ることができました。同時に農業機械の故障によって意欲を無くし、耕作放棄につながっている例もありました。今後は耕作放棄地がどこにあるのかを示す地図を作成し、放棄地発生を予防する取り組みが出来ないかと考えています。



私の祖父は蔵人、父は杜氏として酒造りに携わっていました。そんな自分がNプロジェクトで学んだことは非常に大きなものでした。私が卒業した小学校がすでに廃校になっているなど、能登は人口減少が進んでいて、時代の変化にいかに対応するかが求められています。その土地の文化や暮らしに目を向けてもらえるという点で、Nプロジェクトの取り組みは素晴らしいもので、日本社会にとっても大事なことでないかと考えます。奮闘を見せた3期目のメンバーを誇りに思います。自分たちも社会人としてしっかり成長していかなければならないと感じます。そのためにこれからも学生の皆さんと、蔵人として関わって行きたいと思っています。



チクハ Chikuha N

720ミリ・リットル入り 1,650円(税込)

生酒…1,500本、1月14日発売
にごり酒…800本、2月18日発売
火入れ…700本、4月22日発売予定

3期目代表・石川県立大学 生物資源環境学部 渡邊瑛勇さん



2期目代表・金沢美術工芸大学 環境デザイン専攻 東郷りんさん

大学では美術を学んでいますが、ずっと農業に興味をもっていました。種が芽生えて、人の命をつなげるものが生まれる農業は、非常にクリエイティブな営みだと考えたからです。プロジェクトに入る前から、地方の魅力を伝えることや「コミュニティデザイン」に興味がありました。活動を通して能登と、いま住んでいる金沢の魅力、そして課題を含めたどんな側面も「自分ごと」として捉えられるようになりしました。

東郷りんさん

1期目代表・金沢大学大学院卒 数馬酒造にUターン就職 又木実信さん＝白丸



又木実信さん＝白丸

私の祖父は蔵人、父は杜氏として酒造りに携わっていました。そんな自分がNプロジェクトで学んだことは非常に大きなものでした。私が卒業した小学校がすでに廃校になっているなど、能登は人口減少が進んでいて、時代の変化にいかに対応するかが求められています。その土地の文化や暮らしに目を向けてもらえるという点で、Nプロジェクトの取り組みは素晴らしいもので、日本社会にとっても大事なことでないかと考えます。奮闘を見せた3期目のメンバーを誇りに思います。自分たちも社会人としてしっかり成長していかなければならないと感じます。そのためにこれからも学生の皆さんと、蔵人として関わって行きたいと思っています。

今年のプロジェクトでは3,000本の日本酒を製造。新商品の「にごり」が加わり3種類が店頭に並びます。生酒とにごりは発酵時の炭酸がほのかに残り、斬新な飲み口を楽しむことができます。お酒を通じて能登の里山里海保全について思いを寄せてください。

未成年者の飲酒は法律で禁じられています。お酒は20歳になってから。